

# CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要		■ 外観	
建物名称	ヤマエ久野(株)熊本支店 住宅資材課事務所、(株)中九食品本社 新築工事	階数	地上3F
建設地	熊本県 上益城郡 益城町 大字古閑	構造	S造
用途地域	指定なし、指定なし	平均居住人員	60 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	2,400 時間/年
建物用途	事務所, 工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年3月 予定	評価の実施日	2013年9月10日
敷地面積	7,890 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	3,167 m <sup>2</sup>	確認日	2013年9月13日
延床面積	4,428 m <sup>2</sup>	確認者	



## 1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

環境品質 Q

環境負荷 L

**BEE = 0.8**

■ BEE (環境効率) =  $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能 (ランク表示)

排出率

**98%**

## 2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価		評価点
		<b>72</b>
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	評価点	74.8
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	評価点	60.0
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	評価点	70.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	評価点	82.5

■ 熊本県重点評価基準

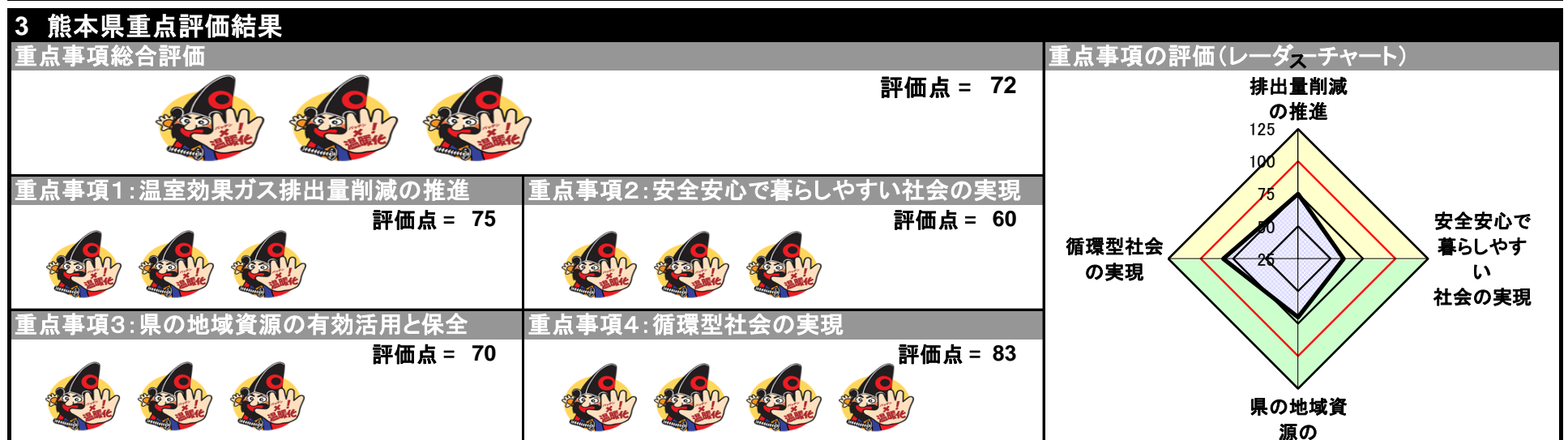
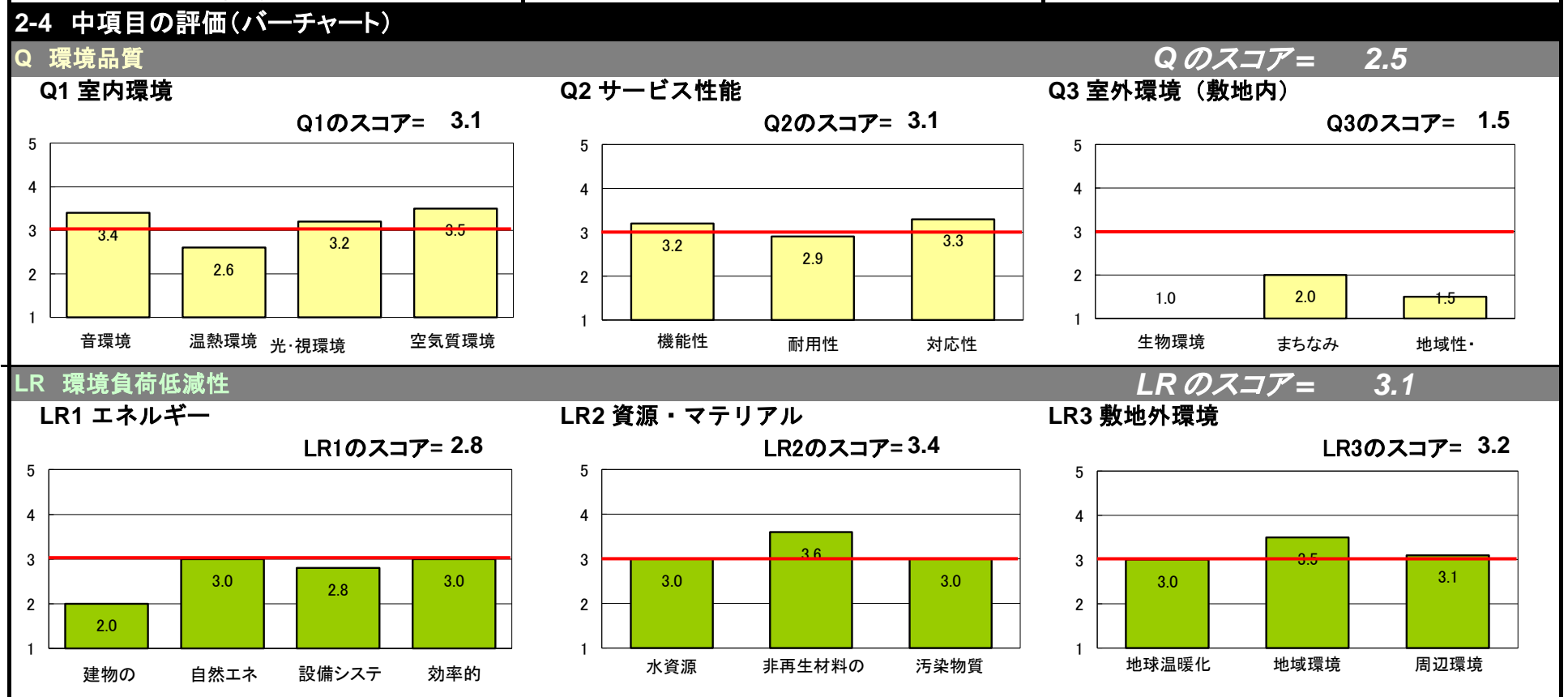
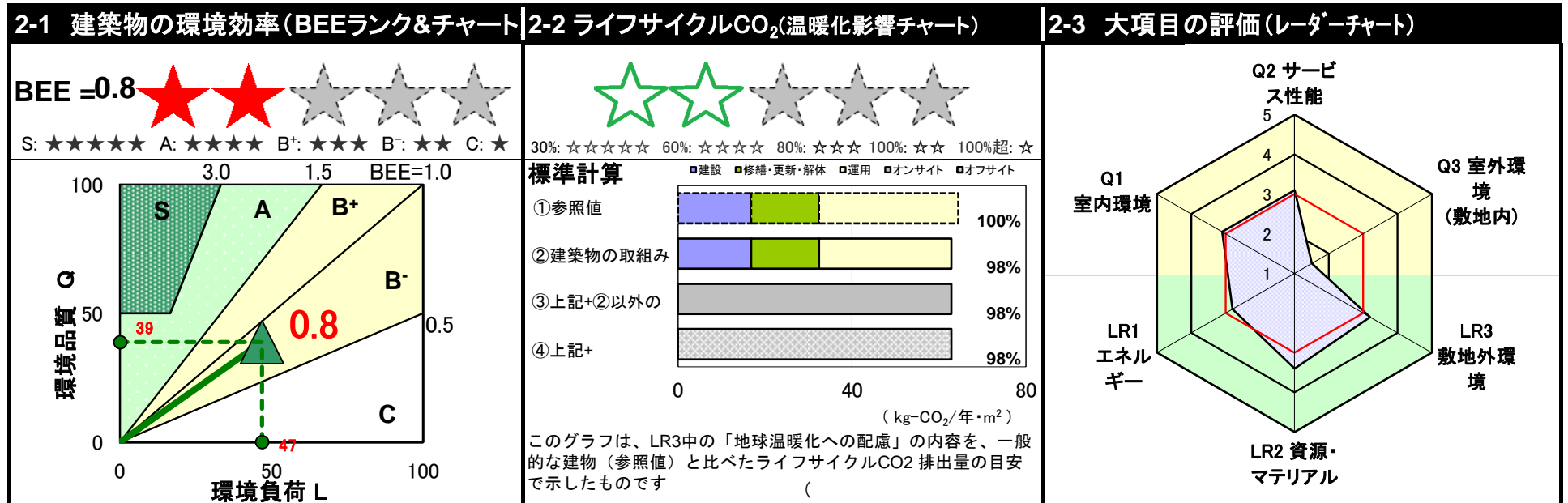
判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

# CASBEE® 熊本 《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb\_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ヤマエ久野(株)熊本支店 住宅資材課事務所、(株)中九食品本社 新築工事	階数	地上3F
建設地	熊本県 上益城郡 益城町 大字古閑	構造	S造
用途地域	指定なし、指定なし	平均居住人員	60 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,400 時間/年
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年3月 予定	評価の実施日	2013年9月10日
敷地面積	7,890 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	3,167 m <sup>2</sup>	確認日	2013年9月13日
延床面積	4,428 m <sup>2</sup>	確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-新築(簡易版)2010年版**

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

ヤマエ久野(株)熊本支店 住宅資材課事務所、(株)中九食品本社 欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.33</b>					<b>3.1</b>
<b>1 音環境</b>			<b>3.4</b>	0.15	-	-		<b>3.4</b>
<b>1.1 騒音</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-		
1	室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-		
2	設備騒音対策		-	-	-	-		
<b>1.2 遮音</b>			<b>4.2</b>	0.40	-	-		
1	開口部遮音性能	サッシュの遮音性能T-2	5.0	0.60	3.0	-		
2	界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-		
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-		
4	界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-		
<b>1.3 吸音</b>			<b>3.0</b>	0.20	3.0	-		
<b>2 温熱環境</b>			<b>2.6</b>	0.35	-	-		<b>2.6</b>
<b>2.1 室温制御</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1	室温		3.0	0.38	3.0	-		
2	負荷変動・追従制御性		-	-	-	-		
3	外皮性能		3.0	0.25	3.0	-		
4	ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-		
5	温度・湿度制御		-	-	-	-		
6	個別制御		-	-	-	-		
7	時間外空調に対する配慮		-	-	-	-		
8	監視システム		-	-	-	-		
<b>2.2 湿度制御</b>			<b>1.0</b>	0.20	3.0	-		
<b>2.3 空調方式</b>			<b>3.0</b>	0.30	3.0	-		
<b>3 光・視環境</b>			<b>3.2</b>	0.25	-	-		<b>3.2</b>
<b>3.1 屋光利用</b>			<b>4.2</b>	0.30	-	-		
1	屋光率	屋光率5.243%	5.0	0.60	3.0	-		
2	方位別開口		-	-	3.0	-		
3	屋光利用設備		3.0	0.40	3.0	-		
<b>3.2 グレア対策</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1	照明器具のグレア		-	-	-	-		
2	屋光制御		3.0	1.00	3.0	-		
3	映り込み対策		-	-	-	-		
<b>3.3 照度</b>			<b>2.0</b>	0.15	3.0	-		
<b>3.4 照明制御</b>			<b>3.0</b>	0.25	3.0	-		
<b>4 空気質環境</b>			<b>3.5</b>	0.25	-	-		<b>3.5</b>
<b>4.1 発生源対策</b>			<b>4.0</b>	0.50	-	-		
1	化学汚染物質	F☆☆☆☆建材を積極的に採用している。	4.0	1.00	3.0	-		
2	アスベスト対策		-	-	-	-		
3	ダニ・カビ等		-	-	-	-		
4	レジオネラ対策		-	-	-	-		
<b>4.2 換気</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1	換気量		3.0	0.33	3.0	-		
2	自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-		
3	取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-		
4	給気計画		-	-	-	-		
<b>4.3 運用管理</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-		
1	CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50	-	-		
2	喫煙の制御		3.0	0.50	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>			-	<b>0.30</b>	-	-		<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>			<b>3.2</b>	0.40	-	-		<b>3.2</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-		
1	広さ・収納性	事務所 合計476.75㎡/スタッフ38人=12.5㎡/人	5.0	0.33	3.0	-		
2	高度情報通信設備対応		2.0	0.33	3.0	-		
3	バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-		
<b>1.2 心理性・快適性</b>			<b>3.3</b>	0.30	-	-		
1	広さ感・景観	天井高さ:2.7m	4.0	0.33	3.0	-		
2	リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-		
3	内装計画		3.0	0.33	-	-		
<b>1.3 維持管理</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-		
2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-		
3	衛生管理業務		-	-	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>			<b>2.9</b>	0.31	-	-		<b>2.9</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>			<b>3.0</b>	0.48	-	-		
1	耐震性		3.0	0.80	-	-		
2	免震・制振性能		3.0	0.20	-	-		
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>			<b>2.7</b>	0.33	-	-		
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	-	-		
6	主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.23	-	-		

2.3 適切な更新			-	-	-	-	-
2.4 信頼性			3.0	0.19	-	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			3.3	0.29	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			4.2	0.31	-	-	-
1	階高のゆとり	階高: 4.0m以上確保	5.0	0.60	3.0	-	-
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-	-
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.37	-	-	1.5
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.5	0.30	-	-	1.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		1.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.8
1 建物の熱負荷抑制			2.0	0.09	-	-	2.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.26	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	-
3 設備システムの高効率化			2.8	0.39	-	-	2.8
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=4.2%	2.8		-	-	-
集合住宅の評価			3.0		-	-	-
4 効率的運用			3.0	0.26	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.63	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.07	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		高炉セメント	5.0	0.20	-	-	-
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		階段滑り止め	3.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上げが容易に分別可能となっている。	4.0	0.24	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-	-
1	消火剤		-	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を全く使用していない。	5.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	-
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-
3	交通負荷抑制	適切な数の駐車場、駐輪場を確保している。	4.0	0.25	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
1	騒音		3.0	0.33	-	-	-
2	振動		3.0	0.33	-	-	-
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	-
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	-
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		4.0	0.70	-	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-

# CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

周辺の建物にとけこむ様、外壁の色、屋根材の色を同系色とし、コスト削減につながる環境配慮の設計を目指した。

### Q1 室内環境

建物の断熱性能を高めるために、断熱性能が高い外壁・屋根材を採用し、さらに室内側の壁・天井にはグラスウールを充填している。  
また使用建材はF☆☆☆☆を積極的に採用した。

### Q2 サービス性能

居室の天井高さ2.7m、1人当たりの執務スペース13㎡以上を確保し、居心地・快適性の向上を図った計画とした。

### Q3 室外環境（敷地内）

周辺の建物にとけこむ様、外壁の色、屋根材の色を同系色とした。

### LR1 エネルギー

LED照明器具や空調機共に高効率設備器を積極的に採用した。

### LR2 資源・マテリアル

再生可能な建材を積極的に採用した。

### LR3 敷地外環境

地域インフラへの負荷抑制の為、適切な数の駐輪場・駐車場を確保した。

### その他

特になし。

# 熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

**建物名称** ヤマエ久野(株)熊本支店 住宅資材課事務所、(株)中九食品本社 新築工事

■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v1.3)\_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	72.4	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
<b>① 温室効果ガス排出量削減の推進</b>				74.8	0.40	29.92
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.09			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.09			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.09			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	2.0	0.04			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.8	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
<b>② 安全安心で暮らしやすい社会の実現</b>				60	0.20	12.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	1.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
<b>③ 県の地域資源の有効活用と保全</b>				70	0.20	14.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
<b>④ 循環型社会の実現</b>				82.5	0.20	16.50
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.7	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

## ■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

## ◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

## ◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数